

# KNCC NEWS

経団連  
自然保護協議会  
だより

No. 97

2024 Summer & Autumn



## CONTENTS

### Opening Article

ゼロの先にある豊かさをつくる、  
未来を生きる子どもたちのために。

清水建設 常務執行役員 環境経営推進室長  
経団連自然保護協議会副会長

金子 美香 ..... 1

### Special Features

〈特集1〉

経団連自然保護協議会 2024年度 会員総会 ..... 3

経団連自然保護協議会 2024年度 役員勉強会 ..... 4

### Features

活動紹介

有識者を招いてのネイチャーポジティブ経営  
推進のための懇談会を4回シリーズにて企画 ..... 5

ネイチャーポジティブ経営推進のための  
ガイダンス解説ウェビナー 第3弾(4/17)を開催 ..... 6

ネイチャーポジティブ経済移行戦略に関する  
説明会を開催(6/20) ..... 7

寄稿

夏花活動紹介 ..... 8

持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム  
経団連自然保護基金支援プロジェクト  
「SATOYAMAイニシアティブ推進プログラム」に  
関するオンライン・イベント ..... 11

第52回公益信託経団連自然保護基金  
運営委員会の開催 ..... 15

新規加入会員企業ご紹介 ..... 16

### わが社の自然保護・生物多様性保全活動

●パナソニックホールディングス株式会社 ..... 17

●TOPPANホールディングス株式会社 ..... 18

●ご寄付をいただいた皆様(法人・個人) ..... 9

### KNCC News Selections ..... 13

◆表紙の写真：海に向かうアオウミガメの子ガメ

経団連自然保護基金からの支援を受けて、Turtle Foundationは地元のパートナー組織であるYayasan Penyu IndonesiaとEcosystem Impact Foundationとともに、インドネシアのセラウト・ベサル島でウミガメの保護に自覚ましい成功を収めています。スマトラ島にあるこの人里離れた楽園は、絶滅の危機に瀕しているアオウミガメとオサガメの重要な営巣地です。

1990年以降の法的保護にもかかわらず、インドネシアのウミガメは卵の盗難や密猟、生息地の喪失などの脅威に直面し続けています。私たちの使命は、こうした脅威に対抗し、これらの素晴らしい種の回復を支援することです。Turtle Foundationは、営巣中の雌ウミガメとその巣の保護、地元レンジャーの雇用と訓練、データ収集、定期的な海岸清掃の実施、地元コミュニティの意識向上に重点的に取り組んでいます。

毎年、タートル財団の献身的な地元レンジャーは、セラウト・ベサル島で年間平均15個のオサガメの巣と600個のアオウミガメの巣を保護し、そこから毎年約42,000匹の子ガメが無事に孵化している。これらの稚ガメは海へと向かい、インド洋北東部で絶滅の危機に瀕しているウミガメの個体数の回復に貢献します。私たちは共に変化をもたらすことができるのです！

◆写真提供：著作権は ©Turtle Foundation に帰属します。

ゼロの先にある豊かさをつくる、  
未来を生きる子どもたちのために。



清水建設 常務執行役員 環境経営推進室長  
経団連自然保護協議会副会長

金子 美香

### はじめに

7月3日に20年ぶりに新札が発行されました。新一万円札の肖像に採用されているのは、日本の近代化に大きく貢献した渋沢栄一翁です。当社は、1887年に渋沢翁を相談役にお迎えし、30年以上にわたって経営指導を仰ぎました。渋沢翁の教えである「論語と算盤」は、企業が利益を追求するだけでなく社会的責任を果たすことの重要性を説いており、当社はこれをいつの時代においても変わらない大事な価値観として「社是」に位置づけています。またこの考え方をもとに、経営理念「真摯な姿勢と絶えざる革新志向により 社会の期待を超える価値を創造し 持続可能な未来づくりに貢献する」を定め、自社のみならず、社会・地球環境の持続可能性を意識した事業活動を行っています。

### TNFD情報開示

当社は、2024年6月にTNFD提言に基づく自然関連財務情報を開示しました。今後も自然との接点を見つめ直し、自然関連のリスクや機会を重要な経営課題の一つと捉え、2030年のネイチャーポジティブ、2050年のシミズグループ環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」の達成に向けた取組みの進捗を報告して参ります。

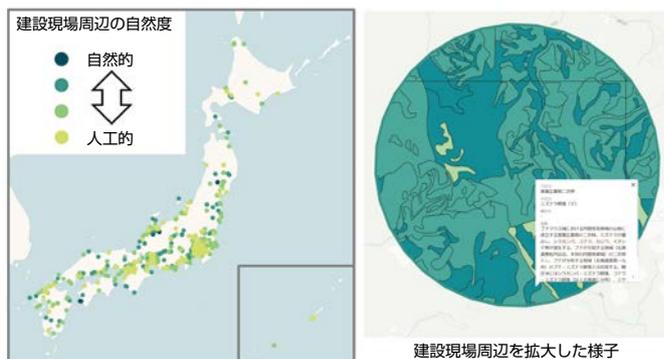
建設業は、自然との接点を考える上で、他のセクターとは異なる特徴があります。それは、屋外の建設現場が多数あること、各建設

現場での建設物はオーダーメイドの一品生産であること、各建設現場での活動(建設行為)が有期であること、の3点です。こうした特徴を踏まえ、如何に自然の課題を業務フローに取り入れるかを検討した結果、「自然KY(ケーワイ)」という取組みを開始しました。「自然KY」は、建設現場周辺の自然環境を地図上で可視化し、把握・評価する取組みです。地図システムでは、建設現場の位置情報と公知の自然情報を活用しています。当社では年間国内で1000を超える建設現場が稼働していますが、それらがどのような自然環境の中で行われているかを網羅的に確認することができます。また、この取組みを営業段階から実施することで、ミティゲーション・ヒエラルキー(回避、低減、再生、オフセット)の考えに基づく対策を考え、実施することも可能となります。なお、「KY」は建設業や製造業などで安全管理のために実施されている「KY(危険予知)」と、自然を再生・創出する「KY(機会予測)」の2つの意味を込めて名付けています。

また、建設業における自然への依存を分析すると、コンクリート打設時に使用する型枠合板が重要課題の1つとして特定されました。特定の地域の外国産合板については、環境破壊や先住民の人権侵害が指摘されています。2030年に非認証の外国産合板の使用をゼロにするという目標に向けて、関係者間での情報共有や意見交換、型枠を扱う取引会社向けの勉強会や新規製品開発などに取り組んでいます。

## 温故創新の森 NOVARE

都市部で自然を創出した事例として、2024年3月に運用開始した当社新施設「温故創新の森 NOVARE(ノヴァーレ)」をご紹介します。NOVAREは当社のイノベーション拠点として東京都江東区潮見に整備したもので、情報発信・交流施設、研究施設、体験型研修施設、歴史資料展示施設、旧渋沢邸の全5棟から構成されています。旧渋沢邸は、当社の二代清水喜助が設計施工を手掛けた建物で、数度の移築を経て現在の地に再移築されました。ここでは、約11,549m<sup>2</sup>の生物多様性に貢献する場を整備し、樹林・草地・水辺といった多様な環



「自然KY」で使用する地図システムでは、全国の建設現場周辺の自然度を網羅的に把握でき、地図を拡大することで周辺にどのような現存植生があるかを確認できる。

境を連続性に配慮して配置しています。それぞれの環境では地域性を考慮した目標植生を設定し、植物の多くを地域在来種としました。

NOVAREとその周辺の公園や区道のみどりは、一体でABINC ADVANCEを取得しています。この認証は江東区との連名によるもので、生物多様性への貢献が地域連携で取り込まれることが評価されました。例えば、東京湾岸地域で希少植物となっているウラギクの域外保全や、それを通じた社内外への環境教育、潮見駅前でコミュニティガーデン活動などを地域のNPO法人との協働で実施しています。

## おわりに

国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)」が今年6月に公表したレポートによれば、日本のSDGs達成度は7年ぶりにスコアと順位を上げたものの、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」は「深刻な課題がある」と評価されています。対策は待ったなしです。次世代に豊かな自然環境を引き継いでいけるよう、私たちが取り組むべきことを真摯に見つめ、早急にアクションを起こし、持続可能な未来社会の構築に貢献していきたいと考えています。



運河沿いにあり海岸の植生を目標とした「潮見しづさわ公園」(写真手前)と「旧渋沢邸」の庭園(写真奥)は、生物の移動に配慮して石積み壁により仕切られている。



水盤(写真中央)地下のピットは、ハス池(写真右下)と連結して文化財である旧渋沢邸の消火用水槽となっている。都市部の貴重な水辺にはたくさんの生き物が集まってくる(写真はカルガモ)。

# 経団連自然保護協議会 2024年度会員総会

経団連自然保護協議会 事務局次長 大嶋優佳

5月29日、経団連会館にて2024年度会員総会を開催。会員代表者をはじめとする約60人が出席し、すべての議案が原案どおり承認されました。



## 西澤会長あいさつ



西澤会長

22年12月のCOP15以降を振り返り、昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF）の採択や、生物多様性国家戦略2023-2030の閣議決定、TNFD提言の公表等の動きの中で、ネイチャーポジティブに関する日本経済界の関心が確実に高まっていることについて言及。一方、世界に目を向けると、米国や欧州においてESGをめぐる政治的対立や、環境政策を牽制する動きも見られることに触れ、10月にコロンビアで開催される生物多様性条約第16回締約国会議（COP16）を通じて世界が

団結し、具体的なアクションを起こすモメンタムが高まることへの期待を述べました。

地球環境の課題への取組は一枚岩とは言えない状況下、会員に対しては、23年に公表した「2030年ネイチャーポジティブに向けたアクションプラン（アクションプラン）」も踏まえながら、多様なステークホルダーと連携し、ネイチャーポジティブに向けて取り組みを加速していくことや、COP16において世界にベストプラクティスを示すことの重要性が伝えられました。

## 主な議案

### 2023年度事業報告および収支決算

経団連自然保護基金を通じた支援、ネイチャーポジティブ経営の普及・啓発活動、政府等への働きかけ、国際活動に関する取り組みおよび決算について事務局から報告を行い、承認されました。

### 2024年度事業計画および収支予算

アクションプランを踏まえ、1) 経団連自然保護基金による貢献、2) ネイチャーポジティブ経営の普及、3) 円滑なネイチャーポジティブ経営推進のための環境整備、4) 日本の取組み発信・海外最新動向の把握、5) PDC Aを柱とする事業計画および予算について事務局から報告を行い、承認されました。

### 第3号議案：役員改選

損害保険ジャパン株式会社 顧問の西澤敬二氏が引き続き、経団連自然保護協議会会長に選任されました（任期：2024年5月29日から2026年総会開催日まで）。



<参考>経団連自然保護協議会役員一覧

### 第4号議案：英文名称の見直しに伴う規約改正

経団連自然保護協議会の英文名称について、「Keidanren Committee on Nature Conservation」から「Keidanren Nature Conservation Council」への変更が承認されました。



<参考>新ロゴ(例)

## 経団連自然保護協議会 2024年度 役員勉強会

経団連自然保護協議会 事務局次長 大嶋優佳

5月29日、会員総会後に経団連会館にて役員勉強会を開催。2022年に開始以降、今回が4回目となり、経団連自然保護協議会役員、企画部会企業の役員等約25名が参加しました。

当日は、環境省 自然環境局長や、情報開示、GBFの指標等における有識者を講師に招き、生物多様性分野の最新動向について講演いただきました。

出席者からは、企業へのインセンティブや開示対応における国際動向、取り組みにあたっての課題等について多数の質問・意見が出され、活発な議論が行われました。



### 役員勉強会テーマ、講師

#### テーマ1 生物多様性に関する日本政府の取組みと経済界への期待

環境省 自然環境局長 白石 隆夫 様

環境省 自然環境局 生物多様性主流化室長 浜島 直子 様

#### テーマ2 サステナビリティ開示全般、生物多様性に関連するISSBの議論

ISSB理事 小森 博司 様

#### テーマ3 生物多様性条約における論点、及び指標進捗、評価に関する議論

東京大学農学生命科学研究科教授 香坂 玲 様

# 有識者を招いてのネイチャーポジティブ経営 推進のための懇談会を4回シリーズにて企画

2024年3月に環境省より公表されました「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」等、企業のネイチャーポジティブに向けた具体的な取組への期待が益々高まっていることを踏まえ、経団連自然保護協議会では、京都大学農学研究科の栗山浩一様ご協力のもと、4

回シリーズにて「有識者を招いてのネイチャーポジティブ経営推進のための懇談会」を企画しました。当イベントは、会員各社がネイチャーポジティブ経営をする上で、参考となるアカデミックな知見のご提供やアカデミアとの相互理解の促進を目的としたものです。

	テーマ	教授
第1回	「ネイチャーポジティブ経営に向けたガバナンスと開示」	高崎経済大学 学長 水口 剛様
第2回	「生物多様性の価値についての定量評価、自然の保全・再興の取組による経済効果測定」	早稲田大学理工学術院 教授 伊坪 徳宏様
第3回	「自然資本金、環境保全対策が株価に及ぼす影響の計測」	九州大学大学院工学研究院 教授 馬奈木 俊介様
第4回	「COP16の主な論点、ネイチャーポジティブに関する欧州の最新動向」	東京大学農学生命科学研究 教授 香坂 玲様

## 【第1回】

第1回は、5月13日、経団連会館にて、「ネイチャーポジティブ経営に向けたガバナンスと開示」をテーマに開催しました。当日は、当協議会を代表して饗場企画部会長が冒頭挨拶を行った後、京都大学農学研究科の栗山浩一教授から、本シリーズの目的や構成など全体像をご説明いただきました。続いて、高崎経済大学の水口剛学長より、ネイチャーポジティブ経営推進

の背景と意義、サステナビリティ情報開示の変遷、生物多様性に関する開示の最新動向、これらを踏まえたガバナンスの在り方などについて講義いただきました。

参加者からは、投資家の意識の変化や、日本企業が取り組むにあたってのポイント、社内でネイチャーポジティブを推進するにあたっての課題等について活発に意見・質問が出されました。



## 【第2回】

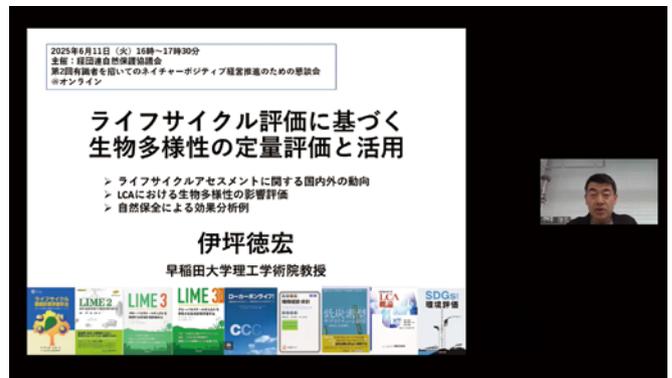
第2回は、6月11日、オンラインウェビナーにて、「生物多様性の価値についての定量評価、自然の保全・再興の取組による経済効果測定」をテーマに開催しました。栗山教授のご挨拶の後、早稲田大学理工学術院教授の伊坪 徳宏様にご登壇いただき、ライフサイクルアセスメントに関する国内外の動向、LCAにおけ

る生物多様性の影響評価、自然保全による効果分析例等について講義いただきました。フリーディスカッションの場では、「製造業と比較すると、環境への負荷が比較的軽微な企業において、生物多様性の影響評価手法の採用を推奨する点について」や、「LIME 3（世界を対象にした環境影響評価手法）を使用する上

でのイメージについて、例えば、TNFDで推奨されているENCOREの代わりとして使用できるのか、1つの事業を調べるためにどの程度の情報、工数が必要か」等の意見、質問が出されました。



第3回は7月17日、第4回は8月27日に開催しており、内容は次号にて掲載いたします。



## ネイチャーポジティブ経営推進のための ガイダンス解説ウェビナー 第3弾(4/17)を開催 ～世界経済フォーラム、WBCSD等欧州経済団体との共同企画～

経団連自然保護協議会では、持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)、世界経済フォーラム(WEF)、Business for Nature等との共同ウェビナーをシリーズでおこなっています。今回はその第3弾として、建設、金融セクター向けのガイダンス解説および日本経済界との対話を目的に、(公社)企業市民協議会(CBCC)の後援も得て開催しました。

生物多様性条約COP15において新たな世界目標として「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択された後、欧州の経済団体の間では、ネイチャーポジティブ経営を推進するためのガイダンスの整備が進められています。セクター別ガイダンスについては、2023年9月に、WBCSD、WEF、Business for Nature等が共同でとりまとめ、公表しています。

当日は、建設・インフラ分野において自然への影響が大きい活動や、金融機関のリスク管理・エンゲージメント活動の在り方、セクター別優先アクション等について、WBCSD、ガイダンスの策定に関与したサステナブルファイナンスを専門とするシンクタンク“Planet Tracker”の有識者が解説しました。各セクターを代表して、清水建設(株)環境経営推進室 グリー

ンインフラ推進部 主席マネージャーの小松裕幸様、(株)三井住友フィナンシャルグループ 社会的価値創造企画部 シニア・サステナビリティ・エキスパートの島健治様も登壇し、ガイダンスへの講評、セクターの特性・課題を踏まえて取り組むべきこと、自社の取り組みなどを共有いただきました。

参加者からも、ガイダンスに対する改善点や、能力構築・部門間連携の必要性、投融資先との対話におけるポイント等について、活発に意見・質問が出されました。

### スピーカー(登壇順)

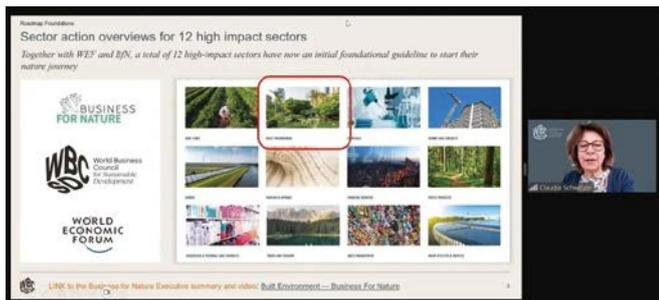
#### 建設セクター

Claudia Schweizer, Built environment Manager, WBCSD  
清水建設(株) 環境経営推進室 グリーンインフラ推進部  
主席マネージャー 小松 裕幸様

#### 金融セクター

Peter Elwin, Director of Fixed Income, Head of Food & Land Use Programme, Planet Tracker  
(株)三井住友フィナンシャルグループ 社会的価値創造企画部  
シニア・サステナビリティ・エキスパート 島 健治様

当日の様子



WBCSD：建設セクター向けガイダンスの解説



Planet Tracker：金融セクター向けガイダンスの解説



## ネイチャーポジティブ経済移行戦略に関する説明会を開催(6/20)

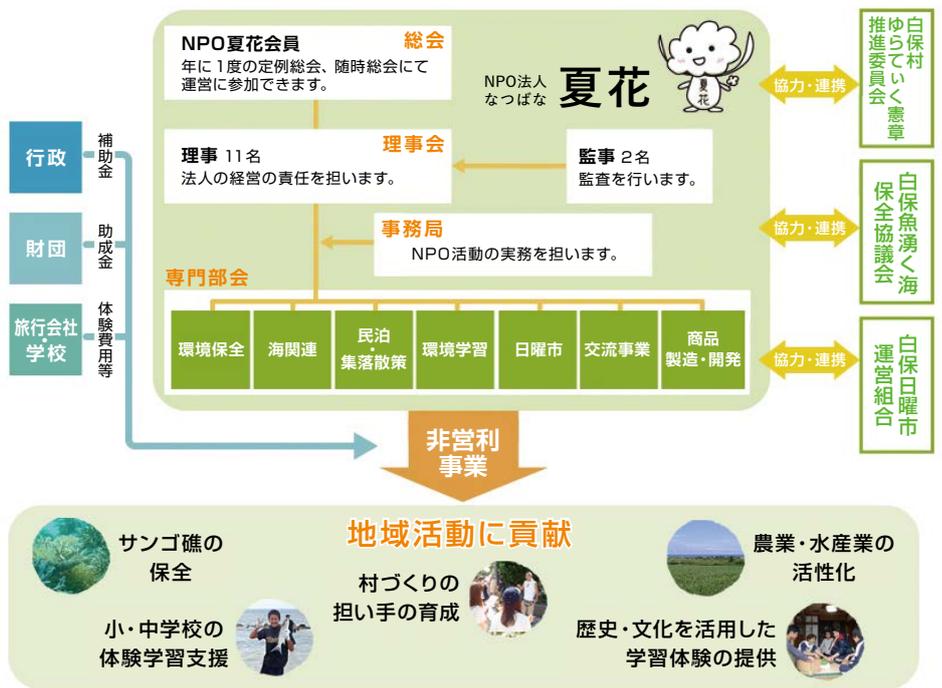
環境省・農林水産省・経済産業省・国土交通省の4省連名で2024年3月29日に策定・公表された「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」の狙い、企業が取り組むべきポイントや国の施策・取組み等について包括的に理解を深めることを目的に、環境省 生物多様性主流化室 室長の浜島様をお招きし、説明会を開催しました。当日は、生物多様性の主流化に向けた背景や戦略、目標にはじまり、ネイチャーポジティブ経済移行戦略の企業価値創出に結びつく意義、ネイチャーポジティブ経済を推進する自然共生サイトをはじめとした環境省の施策状況等をご説明いただきました。その後、本戦略の参考資料集において取り上げられて

いる「ネイチャーポジティブ経済への移行が生み出す新たなビジネスチャンス」の例として、清水建設株式会社 グリーンインフラ推進部 主席マネージャーの小松様、パナソニックホールディングス株式会社 環境渉外室 主務の佐藤様より、それぞれ、アニマルパスウェイ等の自然回廊技術、バイオマスを含むプラスチックに代わる素材のアップサイクリング技術に関し、自社の取組のご紹介もいただきました。その後フリーディスカッションを実施、今後の政府の施策展開等をめぐる質疑応答に加え、自然保全への取組をビジネスとして組成するきっかけ等をめぐり、活発に意見交換が行われました。



# 夏花活動紹介

NPO夏花(なつばな)は、白保村ゆらていく憲章の七箇条に基づき、白保集落の伝統文化、自然環境の保全・継承、地域の活性化などの村づくりに取り組むことを目的に、2013年5月に設立されたNPOです。私たちの暮らす石垣市字白保は、沖縄本島より南西におよそ450km、八重山諸島の主島である石垣島の南東部、広く太平洋を臨む場所に位置しています。白保は、昔ながらの農村集落で、現在も農業・畜産業が盛んな地域です。芸能活動の活発な村としても知られており、一年間の五穀豊穡を神に感謝し、翌年の豊作を願う「豊年祭」、航海安全・豊漁を願う「ハーリー祭」、稲の苗が無事に田んぼに定植するようにと願う「種子取祭」など、年間を通し多くの祭祀儀礼が今も色濃く残っています。祖先から受け継いだ伝統行事を後世に大切に受け継ぐと共に、石垣、福木、赤瓦の伝統的な集落景観をとどめる集落です。集落のすぐ目の前には、世界最大級のアオサンゴ群集で知られるサンゴ礁の海が広がり、“サンゴ礁文化”と呼ばれる豊かな自然と密接に関わった暮らしの文化を受け継いでいます。また、様々な村づくり活動に取り組んでおり、2005年にはサンゴ礁の保全とその持続的な利用による地域の活性



化を目的とする「白保魚湧く海保全協議会」や伝統的な自然の恵みを利用する知恵を受け継ぎ地域特産品の販売を促進する「白保日曜市」がスタートしました。憲章に基づく村づくりは高く評価され、2008年度沖縄県離島振興協議会「島おこし奨励賞」、2009年度「沖縄県優良自治公民館等表彰」や2011年度沖縄県「沖縄ふるさと百選(集落部門)」認定を受けています。

また、大きな活動の一つとしてサンゴ礁の保全活動も実施しており、沖縄県全体の環境問題である赤土流出についての対策等も行ってい

ます。降雨時に畑から土壌が流出し、道路・川を伝って最終的には海へと流れだし、海が濁ってしまうとサンゴが光合成を出来なくなり最終的には死んでしまう白化現象が起こります。流出対策として畑の周りに月桃という植物を植栽することにより流出を抑えられるグリーンベルト対策を行っています。植栽した月桃を利用し、「月桃茶」「ルームフレグランススプレー」を開発・販売し、売り上げの一部を環境保全活動に活用しています。



白保海域のアオサンゴ群集



白保日曜市 八重山上布コーナー

法人寄付

ご寄付を  
いただいた  
皆様

2023年4月～2024年8月2日現在  
(五十音順、敬称略)

- |                     |                       |                     |
|---------------------|-----------------------|---------------------|
| (株)アーレスティ           | 花王(株)                 | (株)セイア              |
| (株)IHI              | 加賀製紙(株)               | 生化学工業(株)            |
| (株)アイシン             | 科研製薬(株)               | 積水化学工業(株)           |
| 愛知製鋼(株)             | 鹿島建設(株)               | (株)セレスポ             |
| (株)アイネット            | カセイ物産(株)              | センコーグループホールディングス(株) |
| アイング(株)             | かどや製油(株)              | 総合メディカル(株)          |
| (株)アウトソーシング         | (株)カプコン               | 双日(株)               |
| AOI TYO Holdings(株) | ガリレイパネルクリエイイト(株)      | 損害保険ジャパン(株)         |
| 朝日インテック(株)          | 関東建設工業(株)             | 第一三共(株)             |
| 旭化成(株)              | キャノン(株)               | 大王製紙(株)             |
| アサヒグループホールディングス(株)  | キャノンマーケティングジャパン(株)    | (株)大気社              |
| あすか製薬(株)            | 京西テクノス(株)             | 大成建設(株)             |
| (株)梓設計              | 極東貿易(株)               | 大成有楽不動産(株)          |
| アステラス製薬(株)          | (株)クロスフォー             | ダイダン(株)             |
| アズビル(株)             | (株)グッドコムアセット          | 大東港運(株)             |
| アテナ製紙(株)            | 栗林商船(株)               | 大同特殊鋼(株)            |
| (株)ADEKA            | (株)小糸製作所              | ダイドー(株)             |
| (株)アプリコット           | 興亜工業(株)               | 大同メタル工業(株)          |
| アルフレッサホールディングス(株)   | (株)合人社グループ            | ダイハツ工業(株)           |
| EPSホールディングス(株)      | 興和(株)                 | 太平洋工業(株)            |
| イーグル工業(株)           | (株)コーエーテックモホールディングス   | 大豊建設(株)             |
| イチカワ(株)             | コナミグループ(株)            | (株)大和証券グループ本社       |
| 伊藤忠商事(株)            | (株)小松製作所              | 大和板紙(株)             |
| 伊藤忠テクノソリューションズ(株)   | (株)サカタ製作所             | 高砂製紙(株)             |
| (株)イトーキ             | (株)サクシオン瓦斯機関製作所       | 立山科学(株)             |
| 稲畑産業(株)             | サワイグループホールディングス(株)    | 立山製紙(株)             |
| イビデン(株)             | 三機工業(株)               | 田中建設工業(株)           |
| 岩瀬コスファ(株)           | 三善製紙(株)               | TANAKAホールディングス(株)   |
| (株)岩田商会             | (一財)三洋化成社会貢献財団        | タマホーム(株)            |
| (株)INPEX            | 三洋工業(株)               | タマポリ(株)             |
| ウエルネオシュガー(株)        | 三洋貿易(株)               | (株)タムラ製作所           |
| (株)ウォーターホールディングス    | (株)シーイーシー             | 中越パルプ工業(株)          |
| エイピーピー・ジャパン(株)      | (株)シービージャパン           | 中央開発(株)             |
| EGUCHI IWAO HD(株)   | (株)ジェイ エイ シー リクルートメント | 中央日本土地建物(株)         |
| (株)エコペーパーJP         | JNC(株)                | 中外製薬(株)             |
| SMBC日興証券(株)         | (株)J-オイルミルズ           | TSUCHIYA(株)         |
| SGホールディングス(株)       | (株)ジェイテクト             | 椿本興業(株)             |
| (株)エックス都市研究所        | (株)JERA               | 帝人(株)               |
| NOK(株)              | シチズン時計(株)             | (株)テラモト             |
| ENEOSホールディングス(株)    | (株)島津製作所              | テルモ(株)              |
| 荏原実業(株)             | 清水建設(株)               | デンカ(株)              |
| (株)エフピコ             | (株)ジャステック             | (株)デンソー             |
| 愛媛製紙(株)             | (株)出版文化社              | TENTOK(株)           |
| オークマ(株)             | (株)商船三井               | 東亜建設工業(株)           |
| 王子エフテックス(株)         | 昭和産業(株)               | (株)東海理化電機製作所        |
| 王子製紙(株)             | (株)シンシア               | 東急建設(株)             |
| 王子ホールディングス(株)       | (株)新日本科学              | 東京石灰工業(株)           |
| 王子マテリア(株)           | 新日本建設(株)              | (株)東芝               |
| 大阪シーリング印刷(株)        | 新菱冷熱工業(株)             | 東芝三菱電機産業システム(株)     |
| 大阪製紙(株)             | 住友化学(株)               | 東ソー(株)              |
| 大津板紙(株)             | 住友金属鉱山(株)             | (株)東陽               |
| (株)大林組              | 住友商事(株)               | 東洋製罐グループホールディングス(株) |
| 岡谷鋼機(株)             | 住友電気工業(株)             | 東洋ビューティ(株)          |
| (株)岡山製紙             | 住友ファーマ(株)             | 東レ(株)               |
| (株)オガワエコノス          | 住友ベークライト(株)           | DOWAホールディングス(株)     |
| 小野薬品工業(株)           | 住友三井オートサービス(株)        | 特種東海製紙(株)           |
| 小原化工(株)             | 住友林業(株)               | (株)トクヤマ             |

個人寄付

TOPPANエッジ(株)  
 TOPPANホールディングス(株)  
 (株)巴川コーポレーション  
 豊田合成(株)  
 トヨタ自動車(株)  
 (株)豊田自動織機  
 豊田通商(株)  
 トヨタ紡織(株)  
 長瀬産業(株)  
 (株)なとり  
 ナプテスコ(株)  
 日油(株)  
 (株)ニチレイ  
 (株)日新  
 日新運輸工業(株)  
 日清オイリオグループ(株)  
 (株)日清製粉グループ本社  
 日清紡ホールディングス(株)  
 (株)ニッスイ  
 日精エー・エス・ピー機械(株)  
 日東紡績(株)  
 (株)ニッピ  
 (株)ニッポン  
 (株)NIPPO  
 NIPPON EXPRESSホールディングス(株)  
 日本化学工業(株)  
 日本紙パルプ商事(株)  
 日本金属(株)  
 日本空港ビルデング(株)  
 日本酸素ホールディングス(株)  
 (株)日本触媒  
 日本精工(株)  
 日本製紙(株)  
 日本製紙パピリア(株)  
 日本たばこ産業(株)  
 日本調剤(株)  
 日本テクノ(株)  
 日本電気(株)  
 日本電子(株)  
 日本電信電話(株)  
 日本発条(株)  
 日本ヒューム(株)  
 日本フィルコン(株)  
 日本フェルト(株)  
 (株)ネクステージ  
 能美防災(株)  
 ノバシステム(株)  
 野村不動産ホールディングス(株)  
 野村ホールディングス(株)  
 (株)パシフィックソーワ  
 浜崎工業(株)  
 浜松ホトニクス(株)  
 ハルナビレッジ(株)  
 (株)パロマ  
 (株)バンダイナムコホールディングス  
 (株)日立国際電気  
 (株)日立製作所

ヒューリック(株)  
 兵庫パルプ工業(株)  
 平林金属(株)  
 ヒロセ電機(株)  
 ファーストコーポレーション(株)  
 フォーライフ(株)  
 富士港運(株)  
 (株)フジタ  
 富士通(株)  
 (株)富士通ゼネラル  
 富士紡ホールディングス(株)  
 古河電気工業(株)  
 プリマハム(株)  
 (株)プロテリアル  
 北越コーポレーション(株)  
 ホッカンホールディングス(株)  
 前田建設工業(株)  
 丸三製紙(株)  
 マルハニチロ(株)  
 丸紅(株)  
 (株)ミダックホールディングス  
 三井住友信託銀行(株)  
 三井物産(株)  
 三井不動産(株)  
 三井松島ホールディングス(株)  
 (株)ミツウロコグループホールディングス  
 三菱重工業(株)  
 三菱商事(株)  
 三菱製鋼(株)  
 三菱製紙(株)  
 三菱電機(株)  
 (株)三菱UFJ銀行  
 (株)ミロク情報サービス  
 森永製菓(株)  
 森永乳業(株)  
 森ビル(株)  
 (株)大和農園ホールディングス  
 ヤマトホールディングス(株)  
 ユアサ商事(株)  
 (株)ヨロズ  
 (株)リクルートホールディングス  
 理研ビタミン(株)  
 リコーリース(株)  
 (株)リンクレア  
 リンテック(株)  
 リンナイ(株)  
 レンゴー(株)  
 (株)ロゴスコーポレーション  
 ワタキューホールディングス(株)  
 渡辺パイプ(株)  
 <その他>  
 岡谷鋼機(株)グループ社員一同  
 椿本興業(株)(株主優待の寄付金選別分)  
 東海プレス工業(株)  
 三菱UFJ銀行ボランティア預金寄付  
 三菱UFJニコスわいわいプレゼント

浅野 陽  
 池田 潤一郎  
 池田 三知子  
 市川 晃  
 伊藤 順朗  
 稲垣 精二  
 井上 隆  
 井上 正幸  
 今井 雅則  
 岩崎 一雄  
 岩間 芳仁  
 岩村 有広  
 植村 政孝  
 内山田 竹志  
 宇野 充  
 大久保 宏紀  
 大熊 博子  
 大嶋 優佳  
 太田 完治  
 大西 力  
 岡 素之  
 奥 正之  
 奥本 健二  
 小倉 克幸  
 小山田 浩定  
 加賀美 猛  
 加藤 敬太  
 加藤 拓  
 神吉 利幸  
 上脇 太  
 菊池 宏行  
 岸谷 岳夫  
 北村 実朗  
 木下 盛好  
 久和 進  
 國部 毅  
 久保田 政一  
 栗田 亨  
 栗和田 榮一  
 畔柳 信雄  
 高下 貞二  
 古賀 信行  
 古賀 明子  
 ゴトウ ユカリ  
 小林 料  
 小林 和早  
 小林 秋道  
 小林 弘明  
 小堀 秀毅  
 小松 裕幸  
 是枝 伸彦  
 紺野 俊雄  
 サトウ ユウスケ  
 讃井 暢子  
 清水 郁輔  
 清水 祐孝  
 上瀬 真一  
 関 正雄

瀬古 一郎  
 高島 誠  
 高橋 栄一  
 武 克己  
 竹内 誠  
 巽 和彦  
 田所 健一  
 タン ウイシアン  
 出口 好希  
 寺師 茂樹  
 十倉 雅和  
 豊田 章男  
 永井 浩二  
 中井 邦治  
 中村 邦晴  
 中村 敬  
 中本 晃  
 新沼 宏  
 西澤 敬二  
 西田 達矢  
 西提 徹  
 西本 逸郎  
 羽賀 昭雄  
 長谷川 知子  
 長谷川 雅巳  
 早川 茂  
 原 一郎  
 半谷 順  
 東原 敏昭  
 平居 義幸  
 福富 直子  
 廣田 康人  
 藤本 勝  
 藤原 清明  
 二宮 雅也  
 増井 裕治  
 松浪 明  
 馬城 文雄  
 丸山 聡  
 三木 繁光  
 御手洗 富士夫  
 峰崎 善次  
 三宅 祥隆  
 宮崎 洋一  
 宮下 健  
 三吉 正芳  
 向井 克典  
 村上 和也  
 邑並 直人  
 村松 隆  
 八木 健次  
 山口 兼人  
 山下 浩之  
 山本 圭司  
 横田 浩  
 吉田 一雄  
 吉田 匡秀  
 若林 忠

※掲載企業名は、寄付をいただきました時点のお名前とさせていただきます。

# 経団連自然保護基金支援プロジェクト 「SATOYAMAイニシアティブ推進プログラム」に 関するオンライン・イベント

## — 国連ハイレベル政治フォーラムサイドイベントオンライン開催 —

持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム (High-level political forum on sustainable development: HLPF) は2013年に国連の総会によって設置され、2030アジェンダと持続可能な開発目標のフォローアップとレビューを行う主要なプラットフォームです。持続可能な開発の課題に取り組むものです。

国連開発計画 (UNDP) が実施するSATOYAMAイニシアティブ推進プログラム (Community Development and Knowledge Management for the Satoyama Initiative: COMDEKS) は「昆明・モントリオール生物多様性枠組」(GBF)の実現に向け、COMDEKSにはOECMの活用を含む「30by30」の達成や自然を活用した解決策 (NbS) 推進への貢献等が期待されています。そうした観点から、基金の助成方針や環境省の国家戦略に合致するため、2023年度より助成による支援を開始いたしました。

COMDEKSは、人の手を介在することで自然資本の

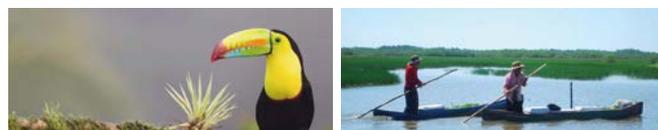
持続的な利用の促進ならびに農林水産業を営む地域住民と自然との共生社会の実現を目指す、という日本の「里山・里海」の保全で培った知識・ノウハウを活用しつつ、発展途上国の生物多様性保全活動を国際的に支援するプロジェクトです。

冒頭ビデオで挨拶した当協議会の西澤敬二会長は、「COMDEKSは『自然と共生する世界』を実現するための「ベスト・プラクティス」のひとつになる」として、UNDPや現地関係者と共にCOMDEKSの活動を世界に広めていくことに意欲を表明しました。

共催者からは、昆明・モントリオール生物多様性枠組 (GBF) の達成に向けて、改めて関係者の連携の重要性が強調されました。その後行われた現地関係者を交えたパネル・ディスカッションを含め、当日は100名超が視聴するなど、本プロジェクトに対する国内外の産学官民の関心の高さがうかがえるイベントとなりました。

### サイドイベント概要

タイトル	自然と共生する社会 HLPFバーチャル・サイドイベント — SATOYAMAイニシアティブと昆明・モントリオール生物多様性枠組 (GBF) の実施を通じた、レジリエンスに富んだ地域社会を構築 —
日付	2024年7月17日
時間	8:00-9:30(ニューヨーク)、 21:00-22:30(東京)
共催者	国連開発計画 (UNDP)、環境省 (MoEJ)、 経団連自然保護協議会 (KNCC)、 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)、 GEFスモールグラントプログラム、 生物多様性条約 (CBD) 事務局



COMDEKS活動紹介ビデオ画像(1) COMDEKS活動紹介ビデオ画像(2)



Marcos Neto 国連事務次長国連開発計画 (UNDP) 副総裁兼ディレクター



西澤敬二 経団連自然保護協議会会長・経団連審議委員会副議長



朝日健太郎 環境省環境大臣政務官

## サイドイベント次第

### サイドイベントの議題

#### (1)開会

- Marcos Neto 国連事務次長国連開発計画 (UNDP) 副総裁兼ディレクター

#### (2)ご挨拶

- 朝日健太郎 環境省環境大臣政務官  
COMDEKSと日本のGBFへの貢献(ビデオ)
- 西澤敬二 経団連自然保護協議会会長・  
経団連審議委員会副議長  
COMDEKSとGBFへ経済界の貢献(ビデオ)
- 山口しのぶ 国連大学サステナビリティ高等研究所所長  
SATOYAMAイニシアティブとGBFに資する活  
動の国際パートナーシップ

#### (3)COMDEKS活動紹介(ビデオ)

#### (4)基調講演

- 武内和彦 地球環境戦略研究機関(IGES) 理事長  
SATOYAMAイニシアティブとSEPLSの概要(ビデオ)

#### (5)COMDEKSフェーズ4の概況説明

- Rissa Edoe 国連開発計画 (UNDP) GEF SGP/  
UNDP COMDEKSパートナーシップスペシャリスト  
COMDEKSフェーズ4の概要

#### (6)パネル・ディスカッション

- COMDEKS参加国の市民社会・地域社会の代表者
  - ・ Mr. Luis Palma エコノミスト, Centro de Capacitación Campesina de Puno (Puno Rural Training Center) /ペルー
  - ・ Ms. Huriye Goncuoglu 創設者, Women in Fisheries Society and Ms. Gokmen Argun SGP 国内コーディネーター /トルコ
  - ・ Ms. Fadimatou Hashimi 会長, Association HORIZON INFO and Mr. Aime Kamga SGP 国内コーディネーター /カメルーン

#### (7)質疑応答

#### (8)閉会

- Astrid Schomaker 生物多様性条約 (CBD) 事務局長



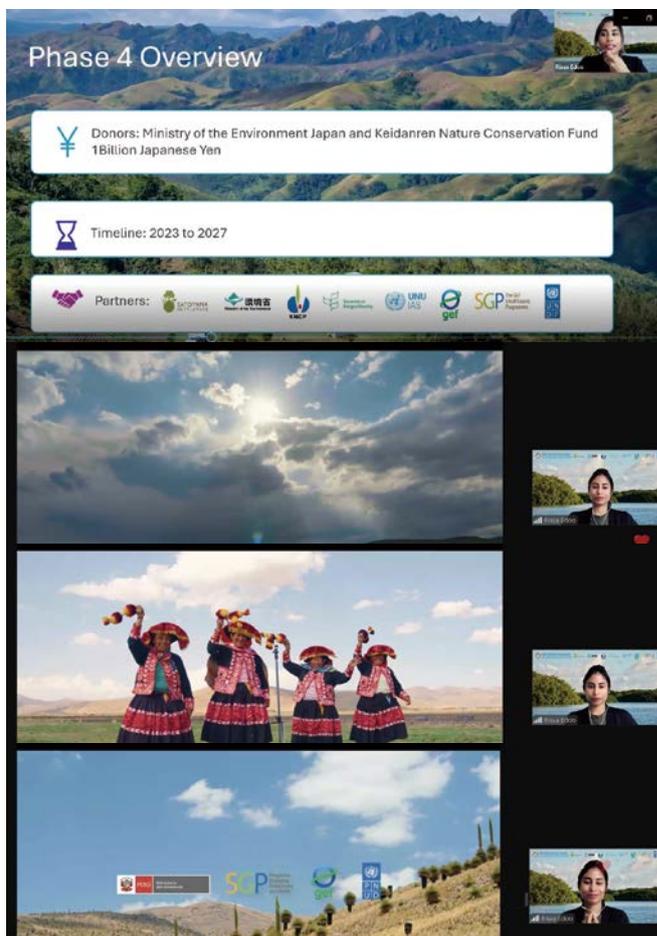
Astrid Schomaker 生物多様性条約 (CBD) 事務局長



山口しのぶ 国連大学サステナビリティ高等研究所所長



武内和彦 地球環境戦略研究機関(IGES) 理事長



Rissa Edoe 国連開発計画 (UNDP) GEF SGP/UNDP COMDEKS パート  
ナーシップスペシャリストによる活動紹介

## 2024年度第1回企画部会の開催

2024年5月13日、2024年度の第1回企画部会を経団連会館会議室にて開催。饗場部会長を議長に、それぞれ以下の議題について事務局から説明をし、質疑応答並びに協議を行いました。最後には、新たに委員になられた方よりご挨拶をいただき、また、当事務局からも、退任、新任者よりご挨拶を申し上げます。

### 議題1：2024年3月以降の主な活動報告

- ①ネイチャーポジティブ推進課題の共有・解決に向けたワークショップ(3/22)
- ②IUCNソーシャルトランスフォーメーションセンター長との意見交換(3/25)
- ③第3回ネイチャーポジティブ経営推進のためのガイダンス解説ウェビナー(4/17)
- ④経団連自然保護基金2024年度助成案件採択結果について
- ⑤環境省「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」の公表について
- ⑥最新の国際動向について

### 議題2：2024年度今後の活動(案)

- ①有識者を招いてのネイチャーポジティブ経営推進のための懇談会(第1～4回)(案)
- ②総会・役員勉強会のご案内(5/29)(案)
- ③2024年度海外における活動(CBD・COP16、IUCNリーダーズフォーラム、海外支援プロジェクト視察)(案)
- ④2024年度国内支援プロジェクト視察(案)

### 議題3：経団連自然保護協議会の英文名称の見直しについて(案)

### 議題4：経団連自然保護協議会の個人情報の取扱いについて

### 議題5：その他(事務局からの連絡事項、企画部会委員新任ご挨拶、事務局退任者、新任者挨拶)

## NGO活動成果報告会

### 第118回(6月開催)

### バードライフ・インターナショナル東京/ソングバードの絶滅回避と生物多様性保全

#### ～ローカルとグローバルの取組により解決策を導く～

東南アジア諸国では鳥が鳴き声の美しさを競うソングバード・コンテストが幅広く行われ、人気を集めています。その人気ゆえ、ソングバードに対する需要は大きく、ソングバードの中には、IUCNのレッドリストに掲載された絶滅危惧種とされているものも多いようです。このプロジェクトは、現地法人のブルーシ・インドネシア(インドネシアのパートナー団体)と共同で、スマトラ島南部の熱帯雨林保全を行われています。また保全活動とともに、近絶滅動物のスマトラトラヤゾウなどの希少動物の保護や地域住民へのあらたな生計手段であるアグロフォレストリーの導入を行われています。その先にはインドネシア・ジャワ島において、乱獲を行っているソングバード飼育者やコンテスト主催者の行動変革を促し、その取組み結果を東南アジア各国関係者へ提言・普及することを目指されています。



# KNCC News Selections

皆様からの情報をお待ちしています。

経団連自然保護協議会  
TEL.03(6741)0981 FAX.03(6741)0982  
e-mail: kncf@keidanren.or.jp

## IUCNソーシャルトランスフォーメーションセンター長との意見交換会

経団連自然保護協議会では、3月25日、IUCN (International Union for Conservation of Nature、国際自然保護連合)のRadhika Murti(ラディカ・ムルティ)ソーシャルトランスフォーメーションセンター長との来日機会を捉え、同氏との意見交換会を実施しました。ラディカ氏は、森林科学、地域社会における気候変動への適応、NbS (Nature-based Solutions: 自然に根ざした社会課題の解決策)等で豊富な経験を有し、防災・減災分野において日本経済界とも交流を続けてきた有識者です。

当日は、NbSの進展や、都市部における環境や人々の生活に適した自然の保全・再興の在り方、先住民等の権利を尊重したIUCNの取り組みなどについて、ラディカ氏から説明いただきました。質疑応答・フリーディスカッションの時間には、IUCNが提供する支援ツールの情報開示への活用、国際目標への貢献の観点から都市部で取り組みを行う意義、防災・減災など社会課題の解決に向けたソリューション提供での経済界との連携等について、活発な議論が行われました。



会合の様子: ラディカ氏(左から3番目)、IUCNリエゾンオフィス・コーディネーター兼大正大学総合学修支援機構教授 古田尚也様(左から2番目)

### 【参考】IUCNについて

1948年に設立された、国際的な自然保護に関する世界最大の連合体です。本部はスイスのグラン。代表的な活動として、絶滅のおそれのある生物リスト(いわゆるレッドリスト)の策定等があります。経団連自然保護協議会は96年に経済団体として世界で初めて会員となりました。

## 着任挨拶



経団連自然保護協議会  
事務局長  
きこうりえ  
酒向 里枝

6月に経団連自然保護協議会事務局長に着任しました。

「昆明・モンリオール生物多様性枠組」の採択を踏まえ、国内でも、骨太方針をはじめとする政府の重要施策集に、ネイチャーポジティブがしっかり盛り込まれるなど、この分野の推進機運は高まっています。この好機を逃すことなく、より多くの企業が生物多様性の視

点を経営に取り入れ、その経営姿勢が社会から評価されるよう、協議会の活動をさらに充実させてまいります。

よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。



経団連自然保護協議会  
事務局長代行  
ことうたまみ  
後藤 珠美

6月に事務局長代行に着任した、経団連教育・自然保護本部主幹の後藤珠美と申します。サステナビリティ経営の推進に取り組む経団連の姉妹団体CBCの事務局を2019年から担当しており、今般、生物多様性保全の奥深い世界に本格的に触れる機会を頂き、大変嬉しく存じます。わが国におけるネイチャーポジティブ経営浸透の牽引

役である会員企業の皆様のお役に立てるよう、力を尽くしてまいります。よろしくお願いたします。

# 第52回公益信託経団連自然保護基金 運営委員会の開催

## ■日時

2024年7月26日(金) 午後4時30分～午後6時30分

## ■議事

- 第1号議案 2023年度 事業報告について
- 第2号議案 助成事業の状況
- 第3号議案 2025年度助成対象の募集・選考について
- 第4号議案 COMDEKS案件について  
⇒審議の結果、第1号議案、第2号議案および第3号議案を原案どおり承認。

## ■議事内容(特記事項)

### ○第4号議案

「SATOYAMAイニシアティブ推進プログラム」(COMDEKS) フェーズ4は、UNDPを実施主体として、環境省、経団連自然保護基金/経団連自然保護協議会、生物多様性条約(CBD)事務局・国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)の連携の下、2022年12月に発足した取組みです。COMDEKSフェーズ4では、昆明・モンリオール生物多様性枠組(GBF)の実現への貢献を目指し、地域社会とともに、社会生態学的生産ランドスケープ(SEPLS)における持続可能な生物多様性保全、ガバナンスお

よび生計向上に寄与することを主眼に、15カ国でコミュニティと市民社会主導による多様なプロジェクトを推進しています。今年度、COMDEKSフェーズ4がKNCFによる支援2年目を迎えることから、運営委員は、UNDPのバックストン美登利政策・プログラム支援局自然環境部長より、COMDEKSフェーズ4の進捗状況について報告を受けました。同部長からは、UNU-IASとの協力によるレジリエンス指標の更新、地球環境ファシリティ小規模無償プログラム(SGP)の国別チームと協力した研修の実施(ナレッジの共有)等を通じて、プログラム全体の効果的な推進に努めていることについて説明があったほか、参加国における支援プロジェクトの選定プロセスがそれぞれ進む中、既に4カ国(モロッコ・ガーナ・ペルー・カメルーン)で支援先の決定、助成金の交付、年間スケジュールの作成等、個別プロジェクトの実施に着手していることなどが紹介されました。その後、運営委員は同部長との率直な意見交換を行い、フェーズ4が順調に進捗していることを確認できました(第4号議案も原案通り承認)。



UNDPのバックストン部長(写真右から3番目)と齊藤駐日副代表(写真右から4番目)を囲んで

### 経団連自然保護基金運営委員会 委員等 (敬称略 2024年7月現在)

#### 委員長:

渡邊 綱男((一財)自然環境研究センター 上級研究員)

#### 委員(ご就任順):

関 正雄(放送大学 客員教授)

川北 秀人(人と組織と地球のための国際研究所 代表)

古田 尚也(大正大学 教授)

岡部 貴美子((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究専門員)

太田 珠美(株式会社大和総研 金融調査部 ESG調査課長・主任研究員)

#### 信託管理人:

渡部 以光(税理士)

以上

## 株式会社国際協力銀行



JBICは、地球環境保全をミッションの一つとして掲げる政策金融機関であり、「ESGポリシー」の下、自然保護・生物多様性保全に資する事業へのファイナンスや、ファイナンス対象事業における環境社会配慮の確認に取り組んできています。昨年は、インドネシア政府が初めて発行したブルーボンドの一部を取得しました。本年6月に発表した第5期中期経営計画においては、自然資本の保全・回復に資する事業の支援を含む「持続可能な未来の実現」を重点取組課題として設定しました。今後も“Navigate toward and Co-create a Valuable Future”を取組のテーマとし、日本と世界、官と民を繋ぐ政策金融機関として、皆様と共に、自然と共生する未来を創って参ります。



代表取締役総裁  
林 信光

## コスモエネルギーホールディングス株式会社



コスモエネルギーグループは、石油製品の安定供給に取り組む一方、再生可能エネルギーの導入や生物多様性の保全、自然資本の持続的利用など、かけがえのない地球環境を次の世代へ残すためのさまざまな活動に力を入れています。当社グループでは、「私たちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします」というグループ理念を掲げ、その実現のために気候変動対策をはじめ、生物多様性など環境問題についても重要課題と認識しています。本協議会に参加し、会員の皆さまと情報共有させていただくことで、当社グループの活動を一層推進してまいります。



取締役 常務執行役員  
竹田 純子

## 株式会社ウェザーニューズ



当社は、1970年の海難事故をキッカケに創業しており、「船乗りの命を守りたい」という熱い想いで海から始まった気象・気候サービスは、空・陸へと広がっています。「船乗りの命を守りたい 地球の未来も守りたい」というDreamを持つ企業として、人間社会・企業活動のみならず、地球環境がともに持続可能となる社会の実現に向け、環境基本方針において、「事業を通じた生物多様性保全への貢献」を掲げ、企業・個人サポーターと生物多様性の状況の「見える化」等の取り組みを行っております。本協議会への加入を機に活動の範囲を広げ、会員の皆様と共に持続可能な社会の実現に向け取り組んでいきます。



代表取締役社長  
石橋 知博

## 太平洋セメント株式会社



太平洋セメントグループは「持続可能な地球の未来を拓く先導役をめざし、経済の発展のみならず、環境への配慮、社会への貢献とも調和した事業活動を行う」との経営理念のもと、水資源や生物多様性への積極的な取り組みを重要な経営課題と位置付け、環境経営方針に定めています。特に生物多様性とかがわりが深い石灰石鉱山においては、希少動植物の保全、採掘区域・跡地の緑化活動など、自然保護・回復の取り組みを重点的に進めています。

本協議会においては会員企業の皆様と連携し、国際目標でもあるネイチャーポジティブの実現に向けより一層の取り組みを進めてまいります。



代表取締役社長  
田浦 良文

経団連自然保護協議会は、引続き、新規会員を募集しております。ご関心がございましたら、経団連自然保護協議会事務局 (knccf@keidanren.or.jp) 迄、ご連絡ください。当協議会の活動・取組み等をご説明させていただきます。

# パナソニックホールディングス株式会社

パナソニックグループは、2022年に策定した長期環境ビジョン「Panasonic GREEN IMPACT」のもと、「より良い暮らし」と「持続可能な地球環境」の両立に向け、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現に挑むとともに、併せて近年の急速な生物多様性の劣化に対して、劣化を食い止め回復軌道に乗せるネイチャーポジティブの取り組みも進めております。今回は、取り組み事例として「kinari(キナリ)」について紹介します。

## 脱プラ化に向けた「kinari(キナリ)」の開発

われわれは多くの環境課題に直面していますが、その中でもプラスチック問題は避けて通ることはできません。環境省によれば、回収されたプラスチックごみの79%が埋め立てあるいは海洋などへ投棄されており、2050年には海洋中のプラスチック量が魚の数を上回るとされています。

当社は、こういった現状を踏まえ、2015年より、石油由来プラスチックの使用量を減らすとともに、自由度の高い加工に耐える成形材料の開発に着手し、天然由来成分であるセルロースファイバーを高純度で樹脂と複合させた「kinari(キナリ)※」を生み出しました。

従来のセルロースファイバー加工品の多くは水中でパルプを解きほぐして繊維にしており、樹脂と複合する際に乾燥させる必要がありました。kinariにおいては、水を一切使用せずに、溶かした樹脂の中でパルプを解繊(かいせん)する「全乾式プロセス」を用いているため、CO<sub>2</sub>を発生させる乾燥工程が必要ありません。

また、kinariの原材料となるセルロースファイバーは、これまで捨てられていた植物廃材から得ることができるため、原材料確保のための農地開拓や供給の安定化の懸念がありません。植物廃材としては、間伐材、廃木材、麻・木綿布、変わったところではコーヒーかすや茶かすなどがあげられます。

2022年12月には、植物由来樹脂のPLA(ポリ乳酸)などに展開することで、



kinariブランドロゴマーク

完全生分解性のセルロースファイバー成形材料を開発し、日本バイオプラスチック協会が認証する「生分解性バイオマスプラ」マークを取得しました。

※「天然由来」や「自然な」という意味をもつ「生成り」が語源

## kinariの活用展開

～京都府福知山市との取り組み～

木の風合いを持ちながら、木工品に



間伐材



チップ  
原料の粗粉碎



パルプ  
植物繊維・束



セルロース  
植物繊維・糸

間伐材からえられるセルロース



福知山市産間伐材



福知山市材成形材料



kinari製給食食器

福知山市の間伐材で作製した給食食器

はない成形加工性をもつkinariには、環境意識の高い企業から問い合わせをいただくとともに、リユースカップやカトラリー、ボタン等への活用を進めています。2023年には、福知山市内の森林間伐材を原材料として使用したkinariを用いて、福知山市と共同で独自の環境配慮型食器の製品化を実現。福知山市立小中学校(全23校)において、全児童生徒分約6,700セットの学校給食食器が使用されています。福知山市では、これに合わせて全小中学校で環境教育を実施しており、その教育内容についても、パナソニックグループとして協力しています。

今後もパナソニックグループは、kinariを通じて、生物多様性保持への貢献を進めるとともに、社会の環境意識向上に努めます。

# TOPPANホールディングス株式会社

TOPPANは、「Breathing life into culture, with technology and heart. 人を想う感性と心に響く技術で、多様な文化が息づく世界に。」をグループパーパスとし、地球と生きとし生ける者が織りなす彩りに満ちた世界、ふれあい豊かな暮らしのために、使命を果たすべく企業活動を行っています。将来にわたりあらゆる生命が存続できる持続可能な社会の実現に向け、2021年「トッパングループ環境ビジョン2050」を策定、2023年4月には新たなテーマとして「生物多様性の保全」を追加し、環境課題への取り組みをサプライチェーン全体や地域社会との協働で進めていくことを宣言しました。

## 自社拠点での 生物多様性保全活動の事例

### TOPPANホールディングス株式会社 総合研究所

総合研究所（埼玉県杉戸町）の敷地の北側は住宅地、南側は農地に面しており、周辺には水田や貯水池が広がっています。

かつて地域の水路などで数多く見られたヘイケボタルが自生できる水辺環境の再現を目指し、2013年に総合研究所内にビオトープを整備。環境省レッドリスト準絶滅危惧種および江戸川水域から移植した地元の希少植物の保全活動を行っています。希少種が生息する草地環境が維持・保全されている点を評価され、2023年前半期には環境省により『自然共生サイト』に認定されました。



総合研究所

## 様々な企業、団体と連携した ネイチャーポジティブへの貢献事例

### 東京都『海の森プロジェクト』海の森プレオープンイベント「春の海の森まつり」への協力(2024年3月)

かつてごみで埋め立てられた人工の島を、木が元気に育つように基盤整備を行い、美しく豊かな森を市民が協力しながら作る、これが『海の森プロジェクト』です。2025年3月に海の森公園（東京都江東区）としてオープンする予定で、TOPPANはそのプレオープンイベントにおいて育樹などの環境体験プログラムを提供しました。



東京都 春の海の森まつり

### 大阪・関西万博 河森正治プロデュースパビリオン共同プロジェクト(2023年11月より先行スタート)

河森正治プロデュースパビリオンは『いのちめぐる冒険』と題して、生態系のダイナミズムに没入できる展示を行うことで、生物多様性の上に私たち人間も生きていることを体感するものです。TOPPANは本パビリオンのパートナー企業として、コカ・コーラボトラーズジャパン様、くら寿司様と共に、2023年11月より開始されたパビリオン共同プロジェクト「いのち繋がる! みやくみやくいきものクエスト」に参加しています。本プロジェクトは株式会社バイオームが提供するいきものコレクションアプリ「バイオーム」を使用して、身近な生き物を観察することで楽しみながら生物多様性を体感できる企画です。TOPPANが担当するテーマは『緑地』。この企画では、緑地が増えることで見られるようになる鳥や昆虫などを観察し、緑地生態系の姿を明らかにします。



大阪・関西万博



# 経団連自然保護協議会

Keidanren Nature Conservation Council

経団連自然保護協議会

会 長：西澤 敬二

事務局：〒100-8188 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館

TEL.03-6741-0981 FAX.03-6741-0982

URL <http://www.keidanren.or.jp/kncf/>

